
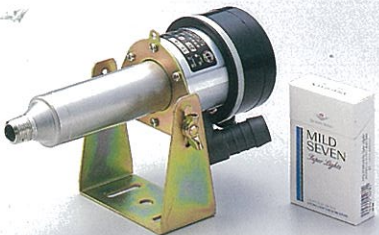
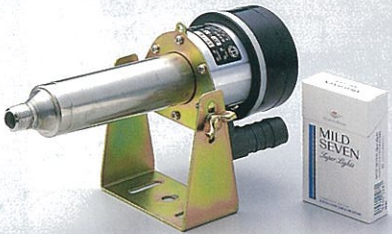




Spriteは、当社製品の大きさを示す目安として掲載しているもので、当社および当社製品とは一切関係ありません

技術の先端を行くスポットヒータ
必ず御満足いただけるT.S.K 熱風発生用ヒータ

標準仕様	型式	品番	ヒータ容量/電圧(単相)
 <p>質量235g</p>	SH05	<ul style="list-style-type: none"> ● 1100-035 K ● 1100-055 K ● 1100-07 K ● 1200-055 K 	350W/100V 550W/100V 700W/100V 550W/200V
 <p>質量600g</p>	SH1A	<ul style="list-style-type: none"> △ 1100-08 K ● 1200-06 K ● 1200-08 K 	800W/100V 600W/200V 800W/200V
 <p>質量630g</p>	SH1B	<ul style="list-style-type: none"> △ 1100-1 K △ 1200-1 K ● 1200-1.2 K 	1000W/100V 1000W/200V 1200W/200V
<p>New</p>  <p>質量1.45kg</p>	SH2C	<ul style="list-style-type: none"> △ 1200-1.5 K ● 1200-2 K △ 1200-2.5 K ● 1200-3 K 	1500W/200V 2000W/200V 2500W/200V 3000W/200V
<p>New</p> <p>マルチコントローラ</p>  <p>質量1.25kg</p>	TRC201	SH専用自動温度調節器 単相100V・単相200V共用	ヒータ制御容量/電圧 20A(2kW)/100V 20A(4kW)/200V

ご注文に際しては型式、品番をご指示ください。

●標準品 △受注品

SH05～SH2C 共通仕様 使用上の注意

最高熱風温度	: ※800℃	供給エアの気体湿度	: 温度40℃で湿度90%以下(非結露)
ホットスタート最高熱風温度	: 500℃	本体の耐圧	: 490kPa以下
A センサ(熱風温度検出用)	: ヒータエレメントに組み込み済	構造	: 防雨形
B センサ(ホットスタートヒータ断線防止用)	: ヒータエレメントに組み込み済	本体据え付け場所の周囲温度	: -20℃～+70℃
ヒータエレメント(発熱体)	: Ni80% Cr20%ラセン巻	最大使用(通過)可能風量	: 圧力損失曲線参照
ヒータ運転終了時(上向、水平)	: 冷却運転する必要なし	定格	: 連続
供給エアの気体温度	: 0℃～+70℃	適正な自動温度調節器	: TRC201

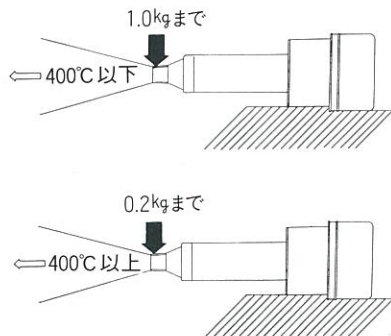
※最高熱風温度はAセンサの位置で測定

振動試験: ホットスタート状態(500℃)に於いて振動数60Hz(2G相当)連続40時間迄は異常ありません。

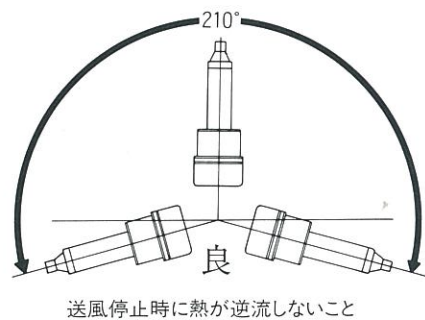
「使用上の注意」

- ① スポットヒータ1台に対して、『マルチコントローラ TRC201』1台が必要です。マルチコントローラなしでは、ホットスタート、ヒータ断線防止、温度制御はできません。
 - ② 運転中はヒータケースが熱くなりますので、火傷防止のためにオプションの断熱カバーを取り付けてください。
 - ③ エア供給源にコンプレッサエア等を使用するときは、供給圧力を490kPa以下に減圧して、かつ最大使用可能風量以下のエアを供給してください(性能曲線の通過風量とヒータ圧損グラフ参照)。
 - ④ エア源はホコリ、水分等のないクリーンエアを使用してください。ヒータ内部に水分、ホコリ等が混入するとヒータの絶縁が低下してヒータの寿命が短くなります。ホコリが内部に入りますと、ヒータの熱で加熱されホコリが火の粉の状態熱風吐出口より飛び出し危険です。
- ※ ⑤ 据え付けは水平設置または熱風吐出口が上向きの場合には自由ですが下向きの場合には送風停止時にヒータ内部等の熱が逆流してエア供給口、プラグイン端子等が過熱することがありますので必ず冷却運転をしてから送風を停止する必要があります。

熱風吐出口の耐荷重



取り付け姿勢

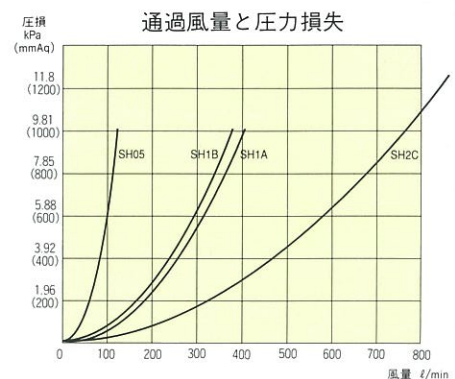
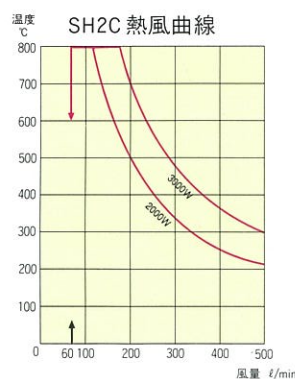
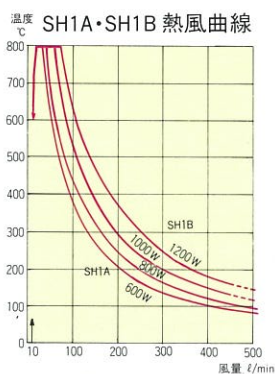
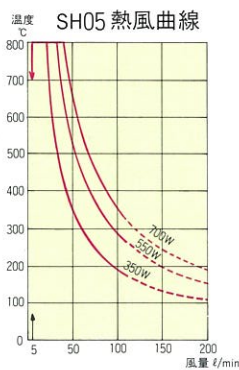


※注意が必要です
⑤を参照

性能曲線

温度、風量、圧力損失の数値はすべて実測で保証値を記載しております。

いずれの性能曲線も、『マルチコントローラTRC201』と組み合わせた計測値です。



吸入温度20℃時に於ける吐出側性能です。風量の測定はエア供給口です。赤線はヒータ電源100%入力時の吐出熱風温度です。TRC201で温度コントロールすると、この曲線以下の温度が自由に調節できます。↙印は使用限界を示し、これ以上の温度、これ以下の風量では使用できません。

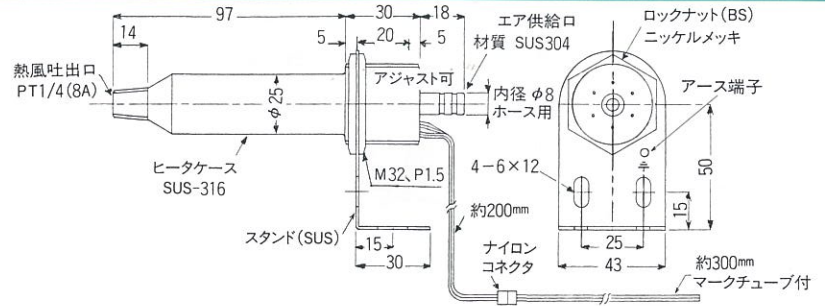
(注) SH05・1A・1Bは9.81kPa(1000mmAq)、SH2Cは13.7kPa(1400mmAq)以下の圧力損失でご使用ください。

(注) ●SH2Cを最高温度近辺で使用されている時に冷却や使用温度を下げる為に急激に供給エア量を増やさせないでください。ヒータガイシ等が破損します。

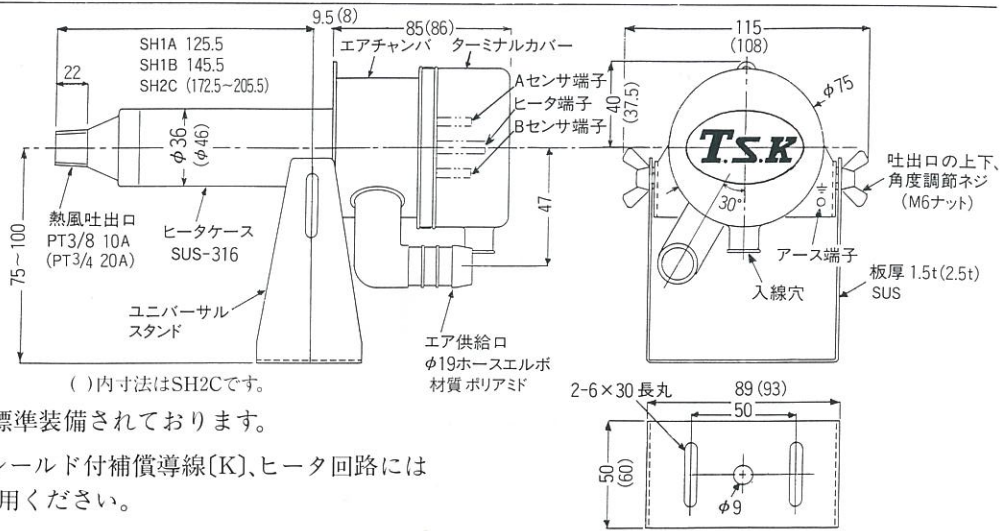
kPa=mmAq×0.0098

外形図

SH05







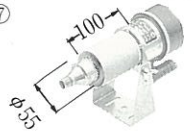





SH1A
SH1B
SH2C



オプションパーツ

①②はSH05専用 ③~⑥はSH1A~SH2C専用 ⑦はSH1A・1B専用

①  延長コード 5m	②  断熱カバー DK25	③  ヒータ用耐熱電線 20m	④  シールド付補償導線(K) 20m	⑤  φ19エアホース4m、バンド2ヶ付
⑥  φ12ワンタッチホースジョイント	⑦  断熱カバー DK36	⑧  SH1A スペアヒータ	⑨  SH1B スペアヒータ	⑩  SH2C スペアヒータ

マルチコントローラ スポットヒータ専用自動温度調節器TRC201の取り付けは3通りできます。



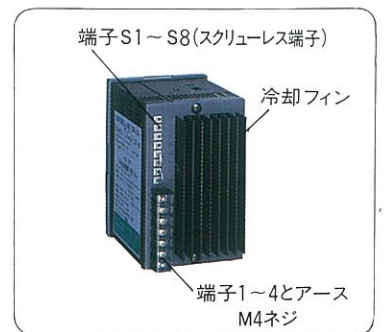
例1 制御盤に埋め込み



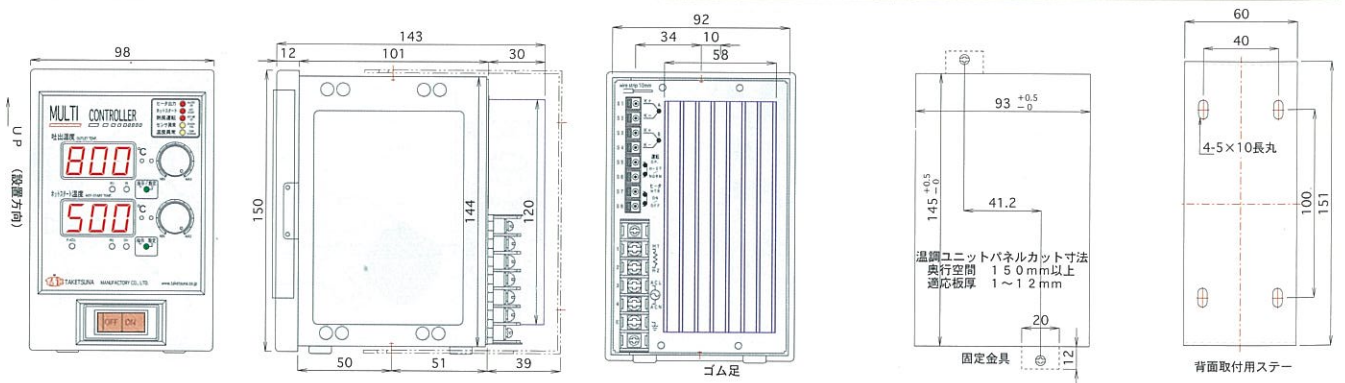
例2 付属ステーを利用して壁面固定



例3 ゴム足にて自立



マルチコントローラ外形図



TRC201仕様

電源	単相AC90~230V 50/60Hz		
ヒータ制御容量	単相2kW (100V時) 以下・単相4kW (200V時) 以下		
最大負荷電流	20A (ヒータ負荷)	※指示精度	800℃±1.0%FS
機能	吐出口熱風温度 Aセンサ 常温~800℃	制御出力	ヒータ制御専用 (位相制御)
	ホットスタート (熱風) 温度 Bセンサ 常温~500℃	絶縁抵抗	50MΩ
	過熱防止温度 (ヒータ断線防止) Bセンサ 700℃固定	耐電圧	1500VAC 60秒 (入力-出力アース間) 500VAC 60秒 (温度センサーアース間)
	『指示/設定』スイッチにより 温度表示の切り替え	使用周囲温度	0℃~+40℃
	外部信号によりヒータ『ON/OFF』	使用周囲湿度	85%RH以下 (非結露)
	外部信号によりホットスタートの『ON/OFF』	端子構造	主回路M4ネジ・制御用スクリューレス端子 撚線0.3~0.75mm ²
	吐出温度上限・過熱防止温度・ホット スタート温度上限設定VRトリマ ホットスタート出力調節	材質	耐熱ABS、フレーム-SPC
温度入力信号	熱電対 [K]、配線抵抗100Ω以下	質量	1.25kg
		付属品	盤埋め込みパネル固定用金具 (2ヶ) 背面取付用ステー (1ヶ) 自立用ゴム足 (4ヶ) M4蝶ネジ (2ヶ)

※設定温度表示と指定温度表示のずれが生じた場合は、設定ボリュームにて微調整をおこなってください (温度設定ボリュームと表示精度は800℃に於いて±2%FSです)。

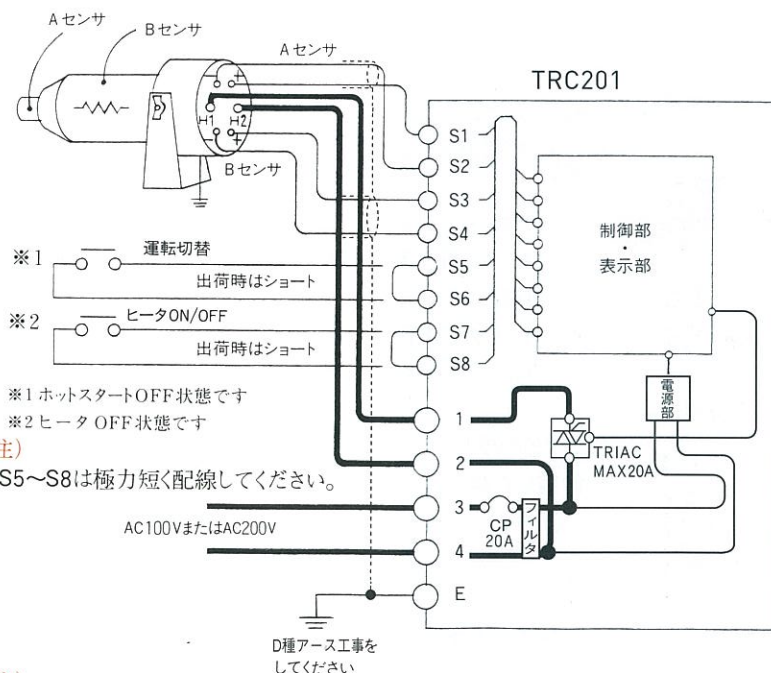
基本結線例

(注)

- 端子番号S1~S8はノイズ・サージ電圧の影響をうけないように配線してください。
- S1~S8の端子には絶対に電圧のかかる配線はしないでください。

信号回路 (DC) と主回路 (AC) とは同一ダクト内に配線しないでください、故障の原因になります。

端子番号	機能説明
S1, S2	Aセンサを接続S1+, S2-
S3, S4	Bセンサを接続S3+, S4-
S5, S6	運転切替
S7, S8	ヒータ ON/OFF
1, 2	ヒータ制御出力
3, 4	電源
E	必ずD種アースをしてください



(注)

- Aセンサ、Bセンサの配線にはシールド付補償導線 [K] を使用し、シールドアース工事を必ずおこなってください。

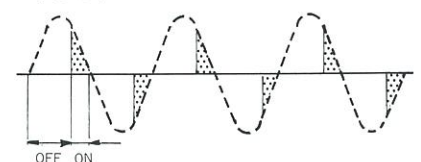
TRC201 運転入力について

端子入力	S5-S6	S7-S8
運転状態		
通常運転	オープン	ショート
ホットスタート	ショート	ショート
ヒータOFF	ショート又はオープン	オープン

メインSW (電源) は入れたままで使用してください。

●位相制御

半サイクルごとに出力量を変化させるため、超高精度な温度制御が可能となります。



結線例

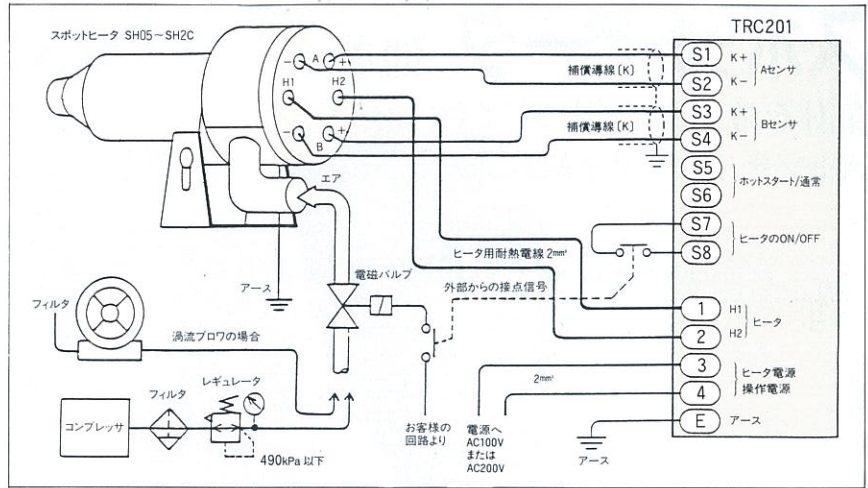
ホットスタート機能を使用しないとき

外部からの接点信号で

熱風吐出 ↔ 熱風停止 の
運転をおこなうときの回路例

(注)

- (S5) (S6) の端子は開放の状態でご使用ください。



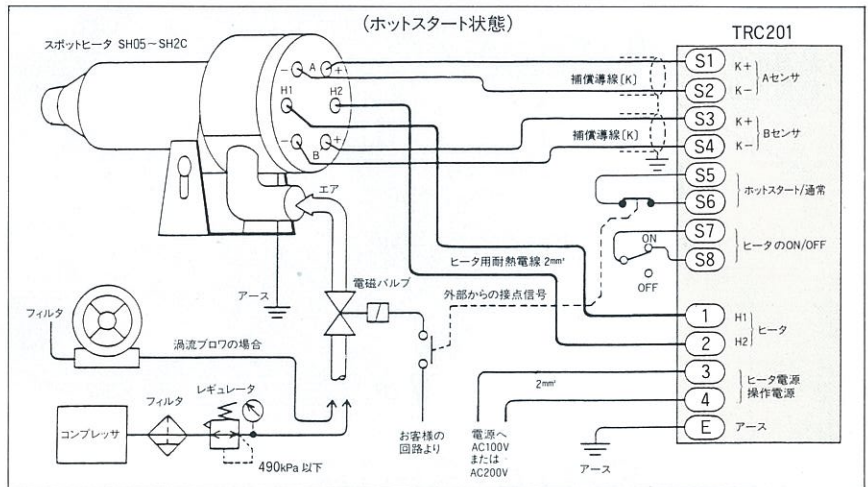
熱風停止のときホットスタート機能を使用するとき

外部からの接点信号で

熱風吐出 ↔ 熱風停止
ホットスタート回路動作 の
運転をおこなうときの回路例

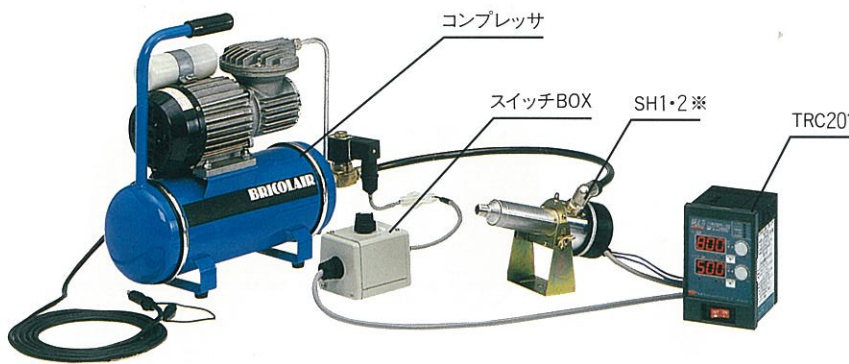
(注)

- (S5) ~ (S8) は極力短く配線してください。

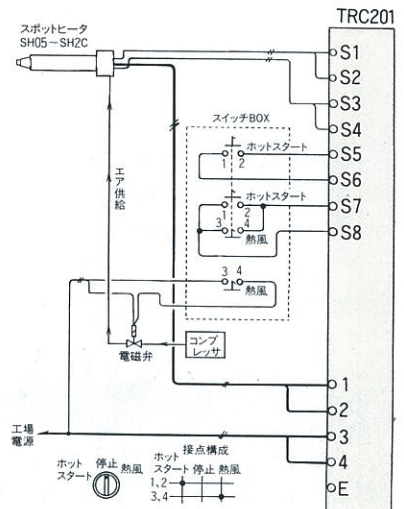


基本使用例

ミニコンプレッサを利用し、手動のスイッチにて
(ホットスタート ↔ OFF ↔ 熱風吐出) を組み込んだ例

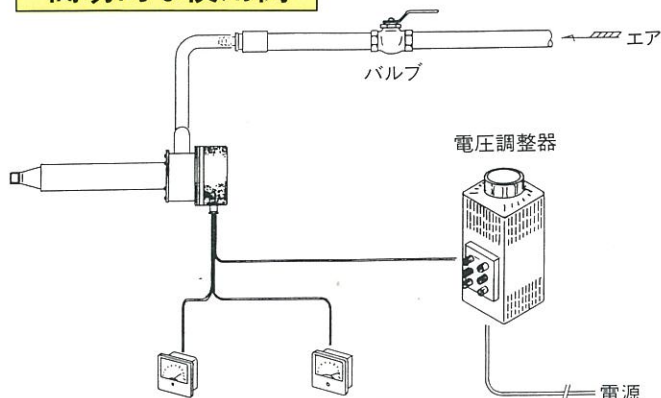


※OP. φ12ワンタッチホースジョイント付



簡易的な使用例

実験室等で簡易的に使用できます



A センサ温度指示 (熱風吐出) 600℃以下で運転してください。
B センサの温度指示 400℃以下で運転してください。

◎ヒータにエアの供給と通電は同時にすることです。
運転終了時はエア供給と通電は同時に切っても、
または冷却運転をしてもさしつかえありません。

長所 = 簡易的に即使用できる。安価である。

短所 = ● 完全な温度コントロールができない。

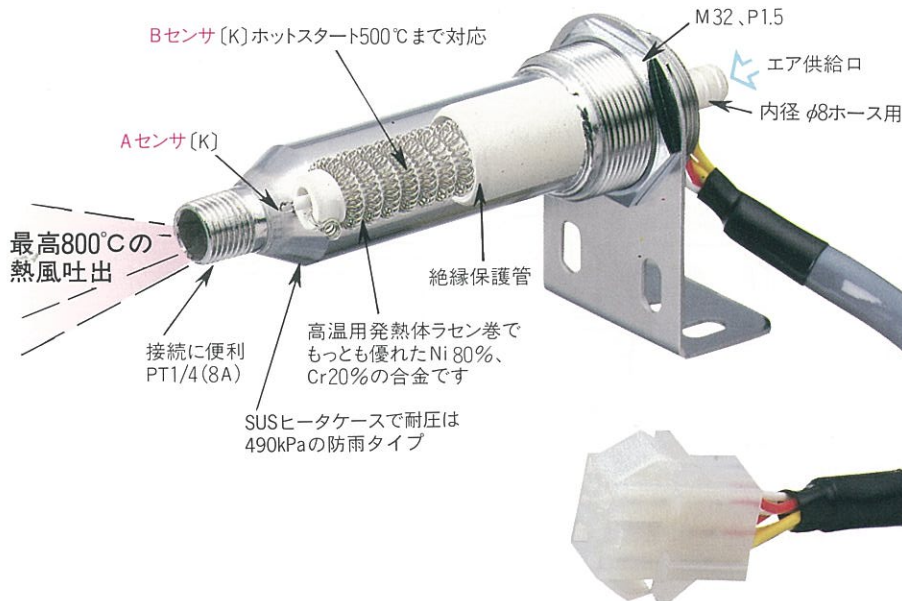
- 無人運転ができない。
- 万一エア量が少なくなるとヒータが高温になり断線する。
- ホットスタート運転ができない。
- 温度指示計を常に監視する必要がある。
- 安全のため熱風温度600℃以下でご使用ください。

スポットヒータ 他社の追随を許さない実力

気体を常温より高温にすばやく加熱できる熱風発生用ヒータです
Aセンサ、Bセンサを組み込んでいるので100%満足できる温度管理

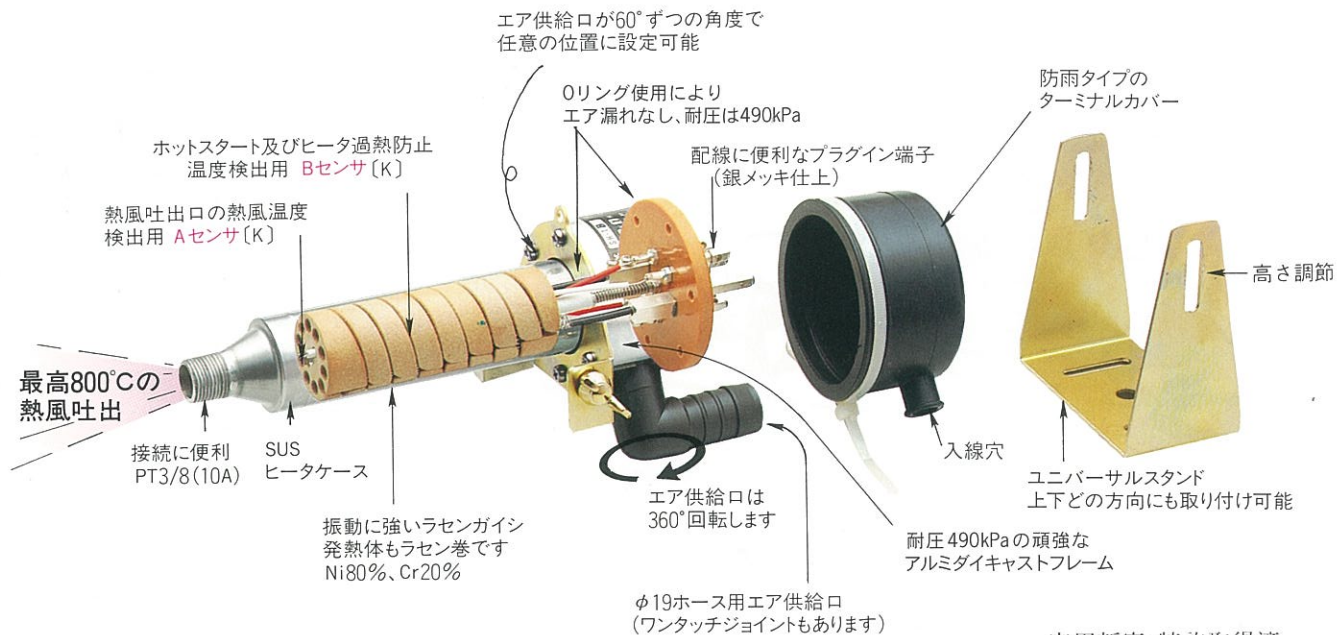
量産品としては
国内初

MODEL SH05 (合成写真)



実用新案・特許・意匠申請中

MODEL SH1A・SH1B (合成写真)



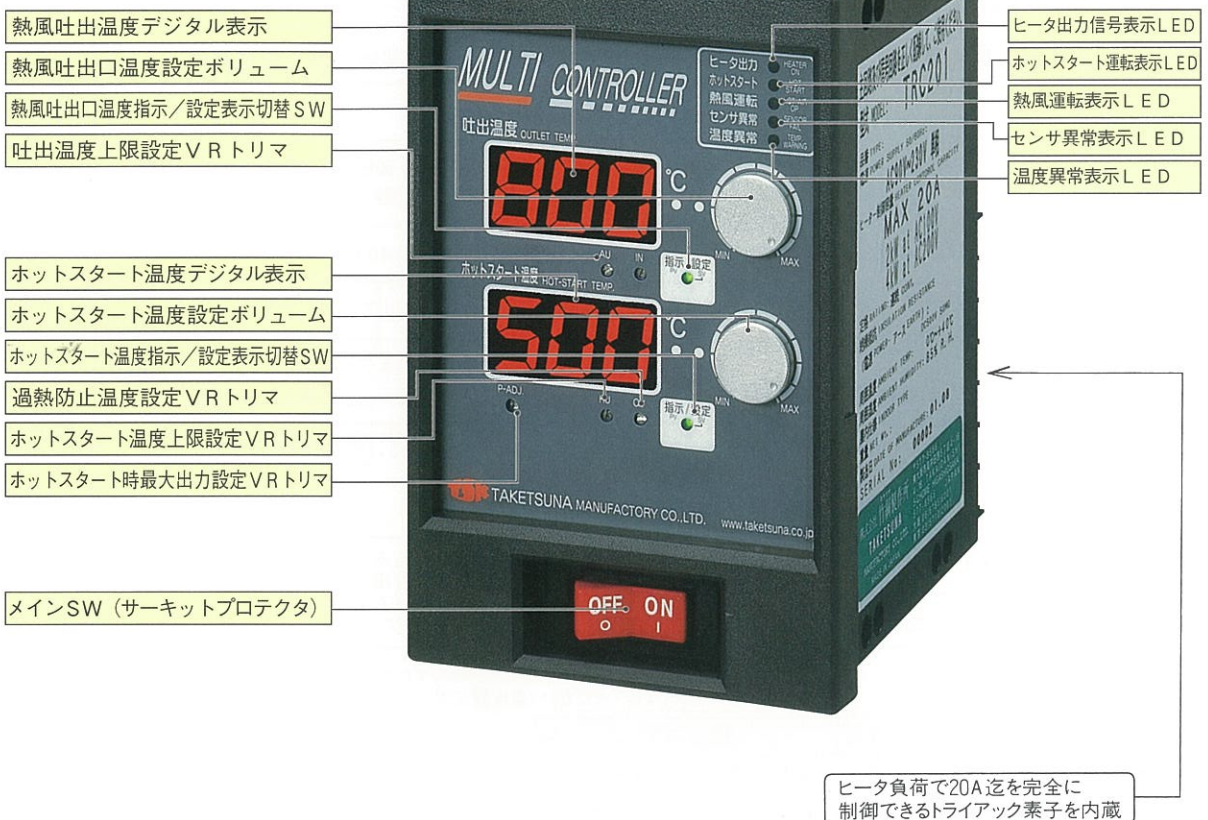
実用新案・特許取得済

用途

- 空気またはヘリウム、アルゴン、チツソ、フォーミングガスの高温加熱。
- NC機械(ロボット)に取り付けて各種部品のスポット加熱、スポット溶解、シリコンウェハの乾燥に使用できます。
- 塩化ビニール等の可塑性樹脂溶接または焼け焦がし。
- ビニール紐等の非接触切断(ホットエアナイフ)。
- 紙等にコーティングされている樹脂のスポット溶解。
- 電気炉、乾燥炉の熱源、ハイブローノズルの熱風源。
- 収縮チューブのスポット収縮、キャップシールの収縮またはハンダの溶解と除去、熱風殺菌、瞬間乾燥。
- 化学繊維の解れ防止、コールドプレスの前段階。
- プレス機に取り付けての熱風カシメ。

マルチコントローラ **業界初** トライアック電力制御

New



- 熱風吐出温度デジタル表示
- 熱風吐出口温度設定ボリューム
- 熱風吐出口温度指示/設定表示切替SW
- 吐出温度上限設定VRトリマ

- ホットスタート温度デジタル表示
- ホットスタート温度設定ボリューム
- ホットスタート温度指示/設定表示切替SW
- 過熱防止温度設定VRトリマ
- ホットスタート温度上限設定VRトリマ
- ホットスタート時最大出力設定VRトリマ

メインSW (サーキットプロテクタ)

- ヒータ出力信号表示LED
- ホットスタート運転表示LED
- 熱風運転表示LED
- センサ異常表示LED
- 温度異常表示LED

ヒータ負荷で20A迄を完全に制御できるトライアック素子を内蔵

特長

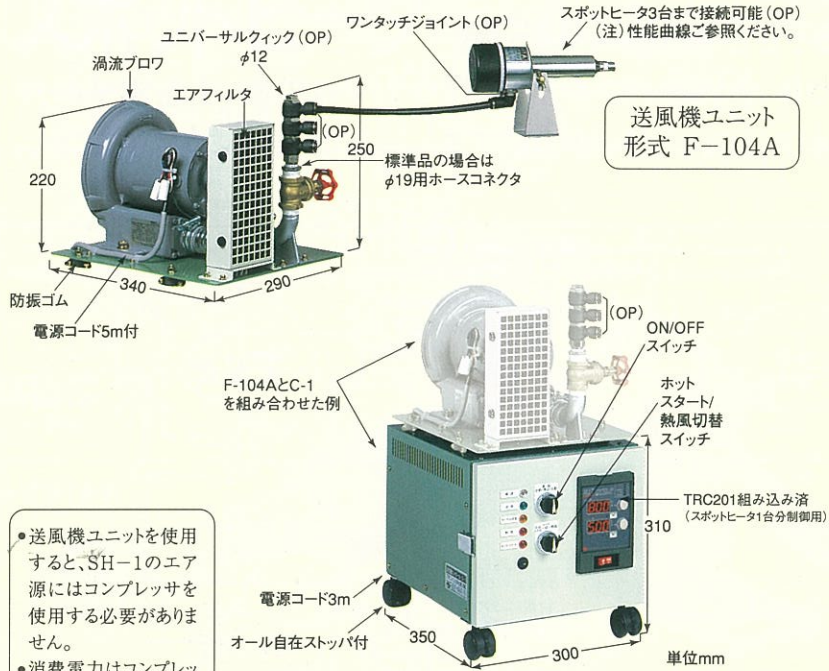
- ① 高温の熱風を吐出しているときに送風とヒータの電源を同時に切ってもスポットヒータは効率のよいヒータですのでさしつかえありません。頻繁にヒータ電源のON⇄OFFを繰り返して運転してもヒータ寿命が短くなりません。
- ② 発熱体の熱が100%近くの効率で熱風になります。
- ③ 耐圧490kPaまで耐える頑強なアルミダイキャスト、ヒータケースにはサビの発生がないステンレスを使用しております。屋外にでも使用できるように防雨タイプのターミナルカバーを取り付けてあります(SH05はターミナルカバーなしで使用可)。
- ④ ヒータエレメント(螺旋ガイシ)に供給エアが通過するときの圧力損失は非常に少ないので供給エア源には消費電力の大きいコンプレッサを使用する必要がなく、一般に販売されている渦流ブロワ(送風機ユニット)で充分です。
- ⑤ 振動に強いニューセラミック螺旋ガイシを使用していますので、送風エアの「送風⇄停止」の繰り返し動作のエアショックに強くまた各種の自動機に取り付けて使用しても充分それらの振動に耐えうる構造です。

- 『マルチコントローラ TRC201』と組み合わせて使用すると……
- ⑥ 電源電圧の変動、供給エアの変動にまったく作用されず熱風の温度は設定通りです(熱風吐出口の熱風温度検出用 Aセンサ[K]の働きによる)。
 - ⑦ 熱風温度は常温から800°Cの間で無段階に任意の温度に設定ができます。
 - ⑧ Bセンサ[K]の働きによって、エア供給が使用中に突然中断しても安全回路が作動します。ヒータの連続使用最高熱風温度で熱風を吐出して運転中に、なお必要以上に供給エアを極少風量に絞ってもヒータエレメントは容易には断線しません。
 - ⑨ ホットスタート回路が組み込んでありますから、送風信号と同時に高温熱風が吐出します。間欠運転ができます。
- 〔⑥～⑨の項目はすべて『マルチコントローラ TRC201』を併用した場合〕

螺旋ガイシの採用によって、きわめてヒータの熱効率がよく、『マルチコントローラ TRC201』と組み合わせて使用するとヒータエレメントの寿命は長くなり、高温の熱風を長期間に渡り安定してご利用できます。

【注】 スポットヒータ1台に対して『マルチコントローラ TRC201』1台が必要です。

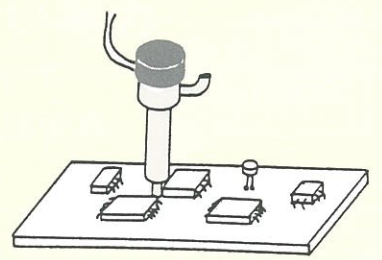
送風機ユニット 60Hz時風量0.69m³/min (690ℓ/分) 静圧6.37kPa



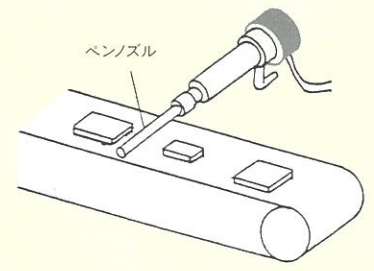
- 送風機ユニットを使用すると、SH-1のエア源にはコンプレッサを使用する必要がありません。
- 消費電力はコンプレッサの約1/15以下になりますので大変経済的です。

送風機ユニット
形式 F-104A

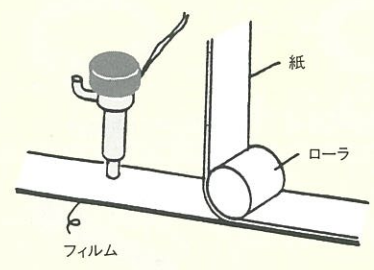
送風機コントロール
型式 C-1



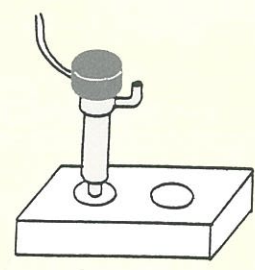
IC半田付前の予備加熱



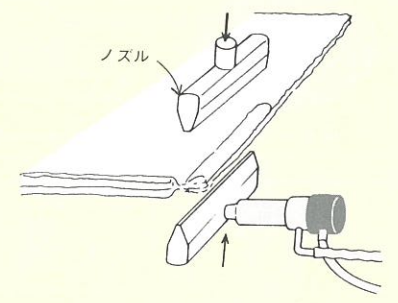
電子部品のエージング



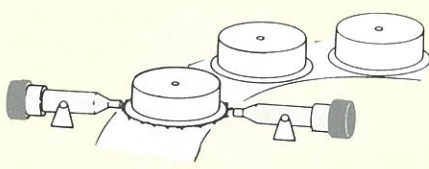
紙管製作のフィルムと紙の溶着



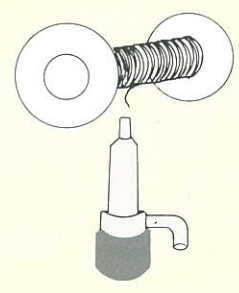
加工穴の内部乾燥



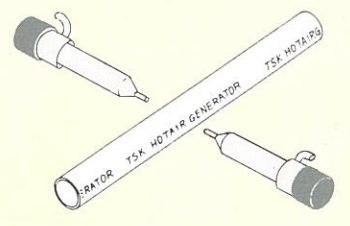
ミン掛の前のカセン毛布の熱風接着に
プレスに取り付けノズルを上下させる



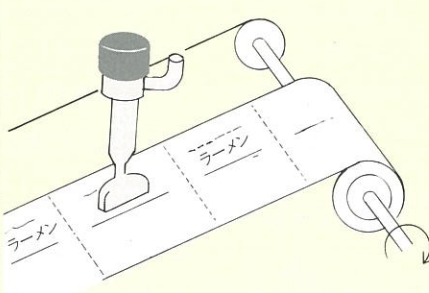
プラスチック製品のバリ取り



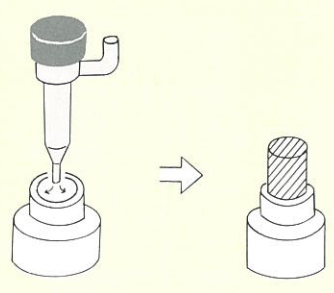
ボビンの残糸の溶断



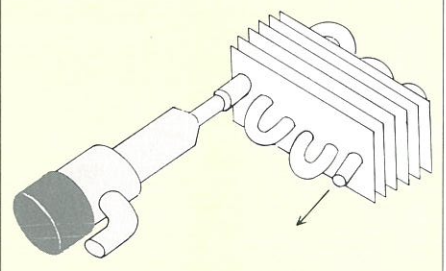
鉄パイプの印刷後のスポット加熱



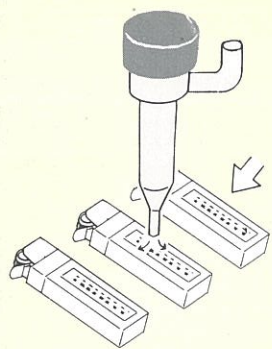
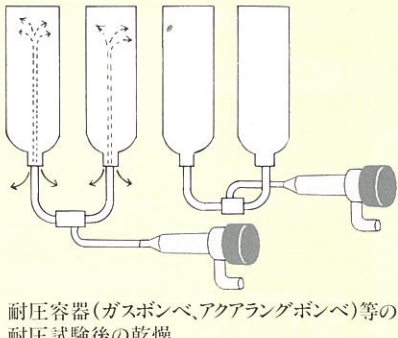
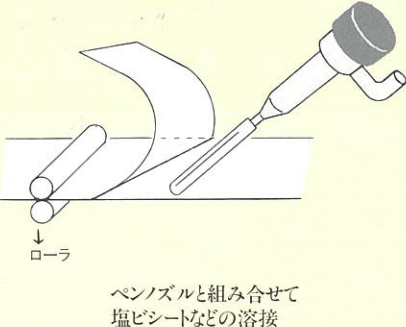
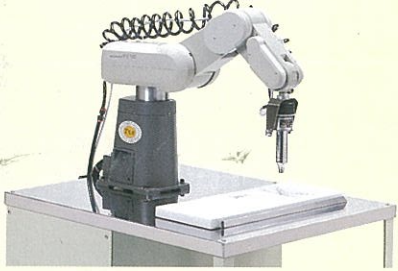
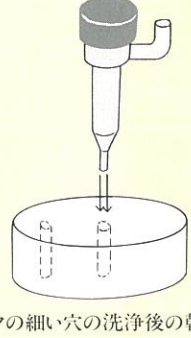
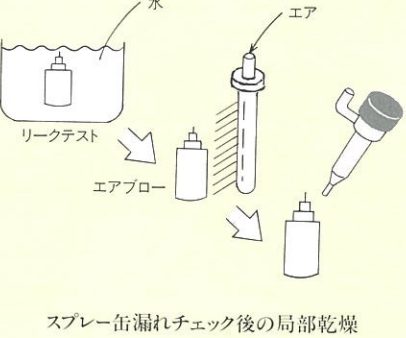
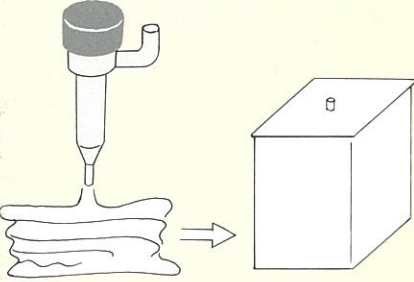
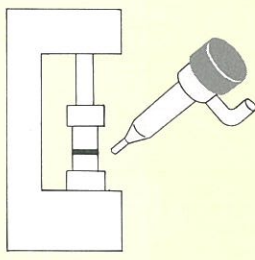
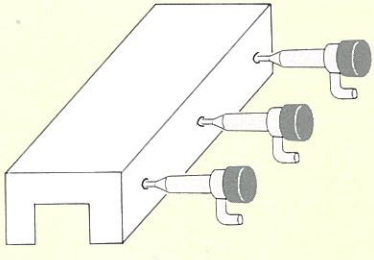
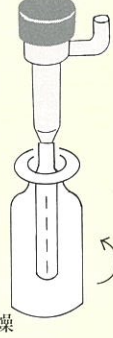
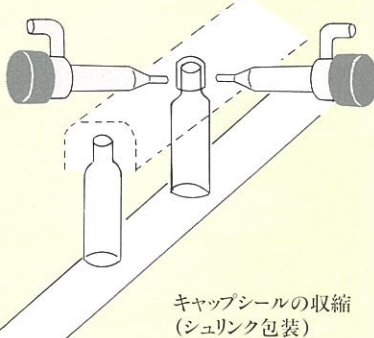
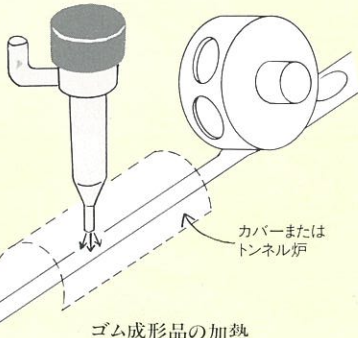

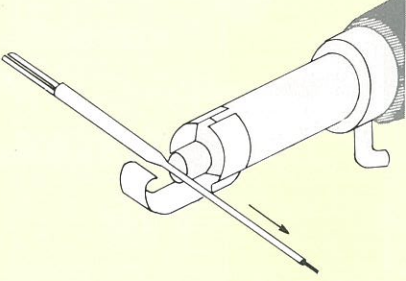
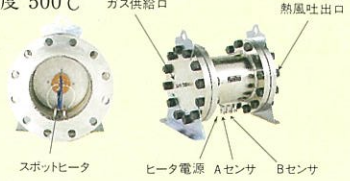
部分印刷または塗装後の
スポット乾燥



ワーク膨張後の圧入



小口径パイプ内部の乾燥
エアコンパイプ内部の乾燥

 <p>ライターや小物 貼付後の 瞬間乾燥</p>	 <p>耐圧容器(ガスポンベ、アクアラングポンベ)等の 耐圧試験後の乾燥</p>	 <p>ベンゾルと組み合せて 塩ビシートなどの溶接</p>
<p>産業用ロボットに取り付けて 完全自動運転</p> 	 <p>ワークの細い穴の洗浄後の乾燥</p>	 <p>水 エア リークテスト エアブロー スプレー缶漏れチェック後の局部乾燥</p>
 <p>ポリエチレン容器を熱風で膨張させる為の 熱源(冬場)</p>	 <p>小型プレス機、金型の食込時の分離</p>	 <p>小型、高温トンネル炉の熱源</p>
 <p>ベンゾルと 組み合せて ガラスピン内の乾燥</p> <p>回転させ ながら</p>	 <p>キャップシールの収縮 (シュリンク包装)</p>	 <p>カバーまたは トンネル炉 ゴム成形品の加熱</p>
 <p>ベアリングの耐熱実験</p>	 <p>配線の被覆チューブの収縮</p>	<p>高温・高圧ガス発生装置</p> <p>耐圧容器にスポットヒータを組み込んだ例、 高温・高圧の熱風発生装置が安価 に設計製作できます。</p> <p>耐圧 1.96MPa 熱風温度 500℃</p>  <p>ガス供給口 スポットヒータ ヒータ電源 熱風吐出口 Aセンサ Bセンサ</p>

TSK熱風発生機

製造
販売元



株式会社 竹網製作所

東京支社 〒144-0035 東京都大田区南蒲田2丁目4番4号
☎(03)5710-2001(代) FAX(03)5710-2005
大阪支社 〒577-8566 大阪府高井田西5丁目4番18号
☎(06)6785-6001(代) FAX(06)6785-6002
ホームページ URL <http://www.taketsuna.co.jp/>

タケツナ

H14.06.D.5000®